

令和元年度フレンズジム中川事業者向け 事業所自己評価アンケート

令和元年9月実施

配付数

10

回収数

10

回収率

100%

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|------------------|---|---|------|---------------|-----|--|
| 環境・ 体制整備 | ① | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 90% | 10% | 0% | 余裕を持てる定員で活動を行っている。 |
| | ② | 職員の配置数は適切である | 70% | 30% | 0% | 適切な配置に努めている。 |
| | ③ | 事業所の設備等は安全面の配慮が適切になされている | 90% | 10% | 0% | コーナガード、指はさみ防止等の配慮をしている。 |
| 業務改善 | ④ | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している | 70% | 20% | 10% | 日々打ち合わせを行い、支援計画や配慮点の共有に努めている。 |
| | ⑤ | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 100% | 0% | 0% | 保護者の意向はスタッフ間で共有し、支援の質向上に努めている。 |
| | ⑥ | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 80% | 20% | 0% | 自己評価結果はHPで公開しているが、スタッフへの周知不足があった。 |
| | ⑦ | 現在第三者による外部評価は行っていないが、機会があれば第三者評価を受審すべきである | 60% | 40% | 0% | 現在、外部評価は行っていない。 |
| | ⑧ | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 70% | 30% | 0% | 自発的な研修参加のための費用補助を行っている。各自の資質向上に向け、定期的な社内研修等行っていきたい。 |
| 適切な 支援の 提供 | ⑨ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している | 90% | 10% | 0% | スタッフ間でニーズや課題の共有を目的として、日々打ち合わせの時間を設けている。 |
| | ⑩ | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールをより活用すべきである（現在は利用開始時に生活スキルチェックを実施している） | 60% | 40% | 0% | 必要に応じて生活スキルチェックの振り返りを行っている。 |
| | ⑪ | 活動プログラムはそれぞれの職員がアイデアを出し合い、固定化しないよう工夫している | 100% | 0% | 0% | 基本的には担当職員が中心となって立案しているが、実施時の配慮や工夫についてはチームで意見を出し合っている。 |
| | ⑫ | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 80% | 20% | 0% | 季節に応じたイベントを行ったり、親子体操、事業所間交流、Sunday'sイベントを実施している。 |
| | ⑬ | 子どもの状況に応じて、個別の課題に対する取り組みと集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している | 100% | 0% | 0% | 保護者の意向や子どもにとって必要な支援を取り入れながら個別支援計画を作成している。 |
| | ⑭ | 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 100% | 0% | 0% | 支援開始前には毎日必ず打ち合わせを行い、前回の振り返りや留意点の確認をとっている。 |
| | ⑮ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか、または次回支援の際に申し送りができるよう、記録等を残している | 80% | 20% | 0% | 支援終了後には、その日の支援内容を振り返りながらスタッフ間での共有を図っている。また、日誌に記録を残して次回の支援に繋げている。 |
| | ⑯ | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 90% | 10% | 0% | 日々の記録を丁寧に残し、支援内容の向上に努めている。 |
| | ⑰ | 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している | 60% | 40% | 0% | 定期的に個別記録を見直ししながら、個別支援計画に沿った支援が行われているか確認している。 |

| | | | | | | |
|--------------|---|---|------|-----|-----|---|
| | ⑱ | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている | 60% | 20% | 20% | 複数の活動を利用者の実態に応じて取り入れながら行っている。 |
| 関係機関や保護者との連携 | ⑲ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した適任者が参画している | 70% | 30% | 0% | 会議前に職員間で話し合いをした上で、代表として児童発達管理責任者が出席している。 |
| | ⑳ | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている | 90% | 10% | 0% | 基本的には保護者を通じて情報共有を行っているが、必要に応じて連絡調整を取っている。 |
| | ㉑ | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 50% | 50% | 0% | 基本的には保護者を通じて情報共有と相互理解に努めている。 |
| | ㉒ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 50% | 50% | 0% | 基本的には保護者を通じて情報共有と相互理解に努めている。 |
| | ㉓ | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある | 10% | 10% | 80% | 戸外活動時に地域の公園にて、場所や遊具共有の機会がある。 |
| | ㉔ | （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している | 50% | 30% | 20% | 自立支援協議会には児童発達管理責任者が積極的に参加している。 |
| | ㉕ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 100% | 0% | 0% | 主に連絡帳や送迎時に様子を伝え合っている。必要に応じて、電話にて詳しい情報共有や共通理解を図っている。 |
| | ㉖ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 30% | 50% | 20% | 相談があった場合には、できる範囲で支援を行っている。 |
| 保護者への説明責任等 | ㉗ | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 100% | 0% | 0% | 契約時に伝え、変更があった場合にはその都度文書にて通知している。 |
| | ㉘ | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 90% | 10% | 0% | 相談があった場合には、必要な助言や支援を行っている。また、スタッフ間でも共有をし、支援の向上に繋げている。 |
| | ㉙ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 80% | 20% | 0% | 年1～2回、保護者懇談会を開催している。座談会形式を取り入れながら、保護者同士の繋がりをサポートしている。 |
| | ㉚ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 90% | 10% | 0% | 契約時に苦情窓口に関する説明を行っている。 |
| | ㉛ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 100% | 0% | 0% | 月1回、フレンズジム通信を発行し、スケジュールの周知や活動内容の報告等を発信している。 |
| | ㉜ | 個人情報に十分注意しているか | 100% | 0% | 0% | 書類の保管や守秘義務の順守を全てのスタッフに周知している。 |
| | ㉝ | 障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている（視覚支援ツールなど） | 100% | 0% | 0% | 場面に応じて必要な配慮を心がけている。 |
| | ㉞ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている、または今後予定がある | 10% | 30% | 60% | 現在のところ、保護者や利用者から希望する意見は上がっていない。必要に応じて検討している。 |
| 非常時等の対応 | ㉟ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 90% | 10% | 0% | 事業所内にマニュアルを掲示している。また、年数回行っている防災訓練等で定期的に対応の確認をしている。 |
| | ㊱ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 100% | 0% | 0% | 利用者参加型で定期的な避難訓練を実施している。 |
| | ㊲ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 90% | 10% | 0% | 採用時研修にて必修としている。また、外部研修へも参加し、虐待防止への意識を高めている。 |
| | ㊳ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載していくことは、職員間で周知されている | 30% | 70% | 0% | 現在、身体拘束が伴うケースはない。必要に応じて組織的な決定をしながら、スタッフへ周知していきたい。 |

| | | | | | | |
|---|----|--------------------------------------|------|-----|-----|---|
| 応 | ③9 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている | 70% | 20% | 10% | おやつ提供時に万が一の事故を防止するため、必ず保護者へ書面にて有無の確認を取っています |
| | ④0 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 100% | 0% | 0% | ヒヤリハットを記録として残すことで安心安全への意識向上に努めている。 |

◇総括

自立支援協議会への参加や保護者や療育センター、他事業所との連携については、代表の職員が担当となって進めているため全体への周知が足りていない状況が伺えます。スタッフ間の情報共有や共通理解を深めるため、日々打ち合わせの充実に努めながら、全職員の資質向上へ繋げていきます。